

活動状況報告書（12月分）

スポーツコース 佐藤 弘也

現在トロントに滞在していますが、12月6日から9日にアルバータ州 Leduc 市の Leduc Curling Club にて行われた Leduc Mixed Doubles WHEELCHAIR CURLING EVENT に参加しました(写真 1-3)。

まず車いすカーリング競技は4人制とミックスマックス(以下、MD)があります。4人制は男女混合4人で構成され、2010年からパラリンピックの正式種目になっていますが、MDは男女1名ずつで構成され、次の2026年ミラノ・コルティナダンペッツォパラリンピックから正式種目に追加されることが決定している種目です。なお、MD競技において2023年の世界選手権でカナダチームは銅メダルを獲得しています。

このイベントでは、NATIONAL WHEELCHAIR CURLING PROGRAM に所属するトップレベルの選手ばかりです。加えてアメリカ代表の選手、コーチも参加していました。もちろんトップの競技レベルを体感できたことは大きな収穫でしたが、またこのイベントが決して多くないスタッフとボランティアも連携して機能していたことが驚きでした。また1番の収穫は実際にMDの代表理学療法士として活動している Alysia 氏の動きを見て学べたことです。理学療法士が合宿やイベントでどのように動いているか、また本来の専門的な業務以外の動きをみて、知れることができた貴重な機会となりました。大会を通じて選手やスタッフ、現地の車いすカーリングに関わる方とも交流ができ、実際に試合のボランティアスタッフとして参加できたことも貴重な経験となりました(写真 4、5)。

語学学校では継続して語学とともにトロントの文化や生徒それぞれの国の文化に触れ、ここでもか経験できないたくさんの学びを得ることが出来ました。特に Speaking クラスでは Taboo や Issue (問題) など普段ディスカッションを避けがちな内容にも触れ、非常に勉強になりました(写真 6)。

12月10日は the Variety Village というトロントで包括的なフィットネス、スポーツ、ライフスキルなどの行える複合施設を見学することができました。ここではプール、陸上トラック、テコンドー場を含む多くのスポーツ、フィットネス施設があり、障がいのある方や子供、老若男女問わず利用することができます。日本にも専用施設は多数あると思いますが、このような包括的な施設は私の知る限りないと思います。ここで働く理学療法士の方々にお話を聞くことができ、障がいの有無を問わず利用できることの重要性、日常レベルから競技レベルまで全てのレベルに対応し、理学療法士としてどのように関わっているかなどたくさんの学びと経験をすることができました(写真 7-10)。



写真 1、2 : Leduc Curling Club にて



写真 3 : Leduc Mixed Doubles WHEELCHAIR CURLING EVENT の開会式の様子



写真 4、5 : 試合のボランティアスタッフとして参加したときの様子。



写真 6 : 語学学校の様子。



写真 7 : the Variety Village でお世話になった理学療法士の方々と。